

最後の晩餐の瞑想プラン



2011 .3 .9~4.22

日	月	火	水	木	金	土
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	4/1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24						

●イースターまでの約40日間(主日を除く)を、イエスの受難について思いを巡らすことは大きな意味があります。40日間という長いように思いますが、聖書では40日間は深い意味があります。主イエスも宣教の働きに入る前には40日間、荒野で断食の祈りの時を過ごされました。シナイ山でモーセが神から律法を受け取ったのは40日後でした。私たちも40日間を集中した祈りの時(瞑想の時)とすることは大いに益のあることだと信じます。

●昨年(2010年)は、四旬節(レント)の期間「イエスの最後の一週間」と題する31日分の瞑想を行いました。今年(2011年)は、昨年のプランの中で割愛した部分つまり「最後の晩餐におけるキリストの最後の教え」一を取り上げ、20日分の瞑想をプランしています。2日間で1回の進度です。それぞれの聖書箇所から瞑想するキーワードを選択して、味わい、スピリチュアル・フレンドと分かち合うならば、大いなる励ましを受けると信じます。

●この時期(3月と4月にまたがる時期)は、日本の教会においては年度末であり、諸事業の報告や新しい年度の活動計画を立てて教会総会にはかる意思決定の時期と重なります。また移動の時期でもあります。こうした時期に四旬節が置かれています。初代教会が祈りに専心したように、シンプルライフ(優先順位を明確に、集中できる環境を整えること)を心がけなければ、じっくりとみことばを瞑想することは不可能です。この時期に集中して瞑想すること自体が、実は霊的戦いと言えるかもしれません。多くの問題に遭遇することがあっても、「私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」と明確な優先順位を提示した初代教会の使徒たちに従って、祈りとみことばに「専心する」ことのできる環境を取り戻すこと、それが今日の教会に求められている課題のように思います。

「最後の晚餐」の瞑想プラン

No.	瞑想日	聖書箇所	タイトル
0	準備	ヨハネの福音書	
1	3/09(水)	13:01~11	弟子の足を洗うイエス
2	3/11(金)	13:12~20	互いに足を洗い合う
3	3/14(月)	13:21~30	イスカリオテのユダの裏切りの予告
4	3/16(水)	13:31~35	互いに愛し合うという新しい戒め
5	3/18(金)	13:36~38	ペテロの否認の予告
6	3/21(月)	14:01~03	場所を備えに行かれるイエス
7	3/23(水)	14:04~06	父への道であるイエス
8	3/25(金)	14:07~14	わたしを見た者は父を見た
9	3/28(月)	14:12~24	さらに大きなわざを行なうもうひとりの助け主
10	3/30(水)	14:25~31	まことの平安を与えるイエス
11	4/01(金)	15:01~11	わたしにとどまりなさい
12	4/04(月)	15:12~17	互いに愛し合いなさい
13	4/06(水)	15:18~16:03	世はあなたがたを憎み、迫害する
14	4/08(金)	16:04~15	真理の御霊の助け
15	4/11(月)	16:16~24	悲しみは喜びに
16	4/13(水)	16:25~33	勇敢でありなさい
17	4/15(金)	17:01~05	大祭司としてのイエスの祈り (1)自分のための祈り
18	4/18(月)	17:06~19	大祭司としてのイエスの祈り (2)弟子のための祈り
19	4/20(水)	17:20~26	大祭司としてのイエスの祈り (3)信者のための祈り
20	4/22(金)	18:01~11	御父から賜った杯

(2011.03.09~04.22)